

来週の「売り物」記事はこれ



2016年12月2日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

ファッションデザイナー 松居エリ 科学するドレス

4日(日)



「ミケランジェロが描く完璧な線のように、体にぴったり合ったドレスを着れば、女性はどんなモデルよりも美しく輝く」。松居エリさん(64) =写真=はトップレベルの科学者と交流し「サイエンスマインド(科学的な考え方)」をファッションに取り入れている異色のデザイナーです。「服に体を合わせるのではなく、体に服を合わせる」。徹底した信念の元、女性の体を多面

体としてとらえ、オートクチュールのドレスでは採寸や仮縫い、フィッティングなどに計12時間かけることもあります。多くの女性を魅了するドレス。松居さんのドレスをまとった女性は素肌のような着心地に驚くといいます。「本質を捉えた服は着る人と一体になる。服は生命体を包む外殻」と話す松居さんのデザインの秘密に迫りました。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待下さい。

「スタバは有利」の真相を追う

就活に役立つアルバイトとは

夕刊特集ワイド 5日(月)



「スタバ(スターバックスコーヒー)でバイトをすると、シューカツ(就職活動)で有利」——。今どきの大学生のあいだで、そんなうわさがあるそうです。実際、人気は高く「アルバイト界のブランド」と言われています。一方、学生たちにとってバイト先での体験は自己PRの材料。そして、自分を成長させてくれる社会経験の場でもあります。うわさの真偽はどうか。企業はそれをどう見ているのか。取材しました。

祝ノーベル賞! 受賞者3つの視点

日本の基礎研究をどう支えるか

オピニオン面 [論点] 9日(金)

今年のノーベル医学生理学賞に選ばれた大隅良典・東京工業大栄誉教授の授賞式が10日に開かれます。自然科学分野で日本の存在感は増す一方で、将来的に日本が得意としてきた基礎研究は苦境に追い込まれる——という懸念が科学界に広まっています。何が問題なのでしょう。基礎研究の重要性と社会のあり方を、これまでノーベル賞に輝いた3氏と考えます。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。



親ありて・岩崎恭子さん

くらしナビA面 7日(水) から2回

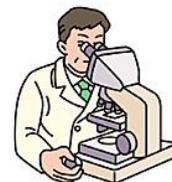


「今まで生きてきた中で一番幸せです」。1992年バルセロナ五輪200m平泳ぎで優勝した岩崎恭子さん(38) =写真。当時14歳の娘を両親はどのように支えたのでしょうか。「あの言葉が独り歩きしてしまいましたね」と振り返る母真知子さんに聞きました。「お姉ちゃんが行っているから」という理由で5歳から水泳を始めた恭子さんと親との愛情物語です。

日本のエイズ

くらしナビA面 9日(金) から2回

日本では、新たにエイズウイルス(HIV)に感染した人や感染に気づかずエイズを発症した人が年間1500件前後、報告されています。主な感染経路は性行為。デリケートな問題を含むため、社会的な関心は低いままで、誤った知識による偏見や差別も根強く残ります。治療方法は進歩しており、早期発見・早期治療が重要です。現状と課題を紹介します。



加藤登紀子・吉田沙保里対談

 おんなのしんぶん 4日(月)



リオデジャネイロ五輪の女子レスリングで銀メダルの吉田沙保里さん(34) =写真。これまで世界選手権・五輪で負けたことがなく、敗戦はリオが初めてでした。加藤さんは「普通なら銀メダルだって素晴らしいのに、あなたの人生にはそれほど負けがなかったのね」と語りかけます。それでも吉田さんは大きな収穫があったといいます。恋愛の話題でも盛り上がりました。

エマニュエル・トッド氏インタビュー 医療・福祉面 7日(水)

フランスの歴史人口学者、エマニュエル・トッド氏 =写真=が毎日新聞のインタビューに応じました。トッド氏は人口統計などによる国際政治の動向分析が専門で、旧ソ連の崩壊や、最近では英国のEU離脱、米大統領選挙でのトランプ氏勝利を予見しています。

トッド氏は、日本では介護や子育てが家族の負担になり出生率の低迷につながっているとの認識を示しています。「日本の最大の課題は人口減少だ」と言い切り、人口問題を克服しなければ30~40年後には取り返しの付かない事態を招きかねないと警告しています。

